

西方音楽館友の会主催コンサート2020年9月～2021年3月に対するクラウドファンディング収支報告

集客総数	312名	12公演
収入		
入場料収入合計	672,100円	
クラウドファンディング合計額	1,341,000円	支援者 69名
手数料を差し引くと	1,163,988円	
収入合計	672,100円+1,163,988円	=1,836,088円
支出		
演奏謝礼合計	860,000円	
楽器にかかる費用	214,000円	
チラシ・プログラム製作代	71,220円	
ホール使用料	209,300円	
リターンにかかる費用	300,000円	
その他	181,568円	
支出合計	1,836,088円	

西方音楽館友の会主催コンサート2021年度後半期

東京公演は無く、すべて西方音楽館 木洩れ陽ホールで15:30～の開催となります。限定25席。早い時期に満席になった場合には、11:30～追加公演を行う場合もございます。(7月18日(日)「サティのいた午後」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で七條恵子さんの来日が難しくなり、来年に延期となりました。どうぞご了承ください。)

- 9月4日(土) 武久源造 ジルバーマン・ピアノ・リサイタル
9月5日(日) 10:30～ ジルバーマンピアノを弾いてみよう! → 午前:聴講生・受講生 午後:レッスン生徒 募集中
～レクチャー・模範演奏&体験&レッスン～
- 10月10日(日) バッハの息子達 演奏:ムジカ・レセルヴァータ
バロック・ヴァイオリン:小野 万里 フラウト・トラヴェルソ:国枝 俊太郎
バロック・チェロ:高橋 弘治 チェンバロ:岡田 龍之介
- 11月13日(土) 久元 祐子 レクチャーコンサート「ソナタの魅力」
ゲスト:永峰高志(ヴァイオリン) ～国立音大所蔵 ストラディヴァリウスを使用。
- 12月5日(日) トリオ・ハービツィ CD発売記念コンサート
トリオ・ハービツィ フォルテピアノ:羽賀 美歩 ヴァイオリン:高橋 奈緒
チェロ:高橋 麻理子
※東京公演は、演奏者の主催で、12月7日(火) 渋谷区文化総合センター 大和田伝承ホールにて開催。



2022年

- 1月8日(土) 川口 成彦 フォルテピアノリサイタル(87)
1月9日(日) フォルテピアノのレッスン 1枠1時間 8枠まで → 受講生募集中
- 2月27日(日) 国枝俊太郎 笛の旅
リコーダー&フラウト・トラヴェルソ:国枝俊太郎 チェンバロ:岡田龍之介
- 3月13日(日) 高橋弘治 J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲 全曲演奏会シリーズ 第3回
(4弦チェロと5弦ヴィオロンチェロ・ピッコロ)



※2021年5月30日に開催した「ベートーヴェンヴァイオリンソナタ 全曲演奏会シリーズ第1回目」の東京公演は、演奏者の主催で、2021年11月19日サニーホールにて開催。



西方音楽館友の会子供のための催し「親子のための音楽会」各回11:00～11:45
新型コロナウイルスが収まるまでは、定員10名要予約。0歳から大人まで。
2021年7月23日、8月9日、9月23日、11月3日、11月23日、
2022年2月23日、3月21日



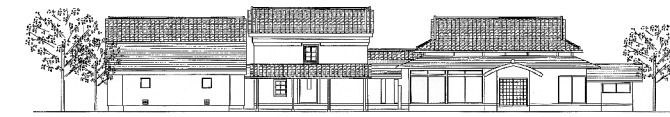
こ・ぼ・れ・話

ネットは便利だけれど、
親しい人と会うのも、
買い物も、
音楽も、
生が良いなあ。 中新井紀子

西方音楽館友の会会員募集

西方音楽館友の会会員募集(毎年4月が更新の時期です)
A会員:3,000円(43名) B会員:10,000円(41名) S会員:50,000円 G会員:100,000円 (2021年6月8日現在会費をご納入の方)
それぞれコンサートへの特典があります。西方音楽館友の会主催コンサートは、会員の会費で支えられています。

西方音楽館友の会運営委員:中新井紀子(西方音楽館館長)、岡田龍之介(チェンバロ奏者)、小川和隆(ギタリスト)、木下大輔(作曲家)
高田良久(医師、下野楽遊代表)、中新井諒子(国立音大卒、クラリネット) 永田美徳(音楽学)、山村多恵子(オカリナ奏者)



2021.6 木洩れ陽の窓から No.25

西方音楽館友の会会報

編集・発行人 中新井紀子

西方音楽館

322-0601
栃木県栃木市西方町金崎342-1 TEL 0282-92-2815 E-mail info@wmusic.jp Web http://wmusic.jp

生の音楽、生の舞台

中新井紀子

コロナ禍にあって西方音楽館友の会では、今年度9月以降、毎月コンサートを開催することとなった。当友の会始まって以来の頻度である。コロナ禍の時期に、逆行した現象である。「赤ちゃんとお母さんのための音楽会」も、お父さんの参加が思いのほか多いので「親子のための音楽会」と名称を改めて、7月から再開する。

演奏者の息遣いまで感じられる、また聴き手の熱い思いが直に伝わってくる、演奏者と聴衆の音楽を通じての交わりが濃密な「木洩れ陽ホール」でのコンサート。親子で触れ合い、友達とも心身ともに交わる「木洩れ陽ホール」でのわらべうた遊び。どちらも、西方音楽館だからこそ可能な催しである。しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大すれば、避けなくてはならないものである。新型コロナウイルスは、西方音楽館が良しとしているものを真っ向から否定する。

スマホ、パソコンなどの画面で、YouTubeや配信でコンサートを聴くことの方が、コロナ禍にあってははるかに安全である。

しかし、人間の体も脳も、ここ10年くらいの間に急速に発達したインターネットによる代替え手段に、ついて行けていないらしい。だいたい20万年かけて進化してきた人間の体や脳が、たった10年から20年くらいの期間で、スマホやパソコンに合わせて変わる訳がない。人間は、他の哺乳類と同様、狩猟採集のために野山を駆け巡り、生き延びるために群れを成し、子を守り育てるために触れ合い、生活してきた。スクリーンを通しての体験や触れ合いは、疑似体験に過ぎない。

他者の行為の意味を理解し、共感を実現する機能を持つとされる脳内のミラー・ニューロンは、人と実際に会う時に最大限に活性化し、演劇鑑賞ではやや劣り、映画鑑賞では更に劣るという実験結果があるようだ。パソコンやスマホの画面では、他人の気持ちや考えを理解する脳のメカニズムの働きが、実体験の場合よりかなり劣るらしい。

第6回西方音楽祭4月11日「音と身体」で、ピアノによる生演奏と目の前で繰り広げられるダンスには、圧倒された。隣接する蔵で待機のはずだった知的障害のある子が「どうしても聴きたい!観たい!」と意志が固く、急遽ホール内にお母様の隣に席を用意したら、全く飽きることなく最後まで熱心に聴き入り、観入り、感想を聞いたら「面白かった!!!」とのこと。スクリーンでの疑似体験では恐らくあり得なかったことと推測する。

手の消毒、マスクの着用、空気清浄機の活用、換気等々、考え得る限りの感染防止対策を行い、西方音楽館では可能な限り、生の体験や触れ合いを続けていくつもりである。

※参考資料「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン新潮新書

